

現状・課題 (北区近代化遺産観光推進のための事業計画策定にあたって前提となる課題)

- 課題①：**区内近代化遺産の「認知度」「ターゲット層」「ニーズ」等が分からぬいため、マーケティング調査により明らかにすることが喫緊の課題となっている。
- 課題②：**観光推進において連携・協働の可能性のあるステークホルダー（旅行社、酒造関係者等）の意向・ニーズが分からぬいため、これらを把握することが必要である。
- 課題③：**区内近代化遺産の本格的な観光活用に向けた事業計画が無いため、具体的な事業推進には計画の策定が必要不可欠である。

実施内容

(1) 認知度及びニーズ調査

北区近代化遺産の認知度、ニーズ等を明らかにするため、インターネットによるアンケート調査を実施した。

対象者・サンプル数	北区在住者…400 北区以外の区部在住者…1,200 埼玉県在住者…400 (合計 2,000)
実施期間	令和7年2月7日配信開始～2月12日回収終了
回収サンプル数	2,003

※上記インターネット調査以外に、旧醸造試験所第一工場の来訪者を対象にした現地アンケート調査も実施

<調査結果の分析>

◆北区近代化遺産の認知度、来訪経験・意向

→北区近代化遺産の「認知度」は概ね約4～5割、「来訪経験有＋来訪意向有」は概ね約3～4割
(ニコライ堂より低いが、自由学園明日館、小笠原伯爵邸よりやや高い)

→旧醸造試験所第一工場の「認知度」は39.3%、「来訪経験有＋来訪意向有」は34.7%

◆北区近代化遺産に興味のあるターゲット層

→年齢、性別には大きな偏りはない(興味のある層は幅広い)

◆旧醸造試験所第一工場に求められているニーズ(機能・活用方法等)

→建物内自由見学 →飲食イベント・マルシェ・カフェ等 →日本酒イベント

(2) ステークホルダー調査

以下の5社を対象に、北区近代化遺産の観光活用の可能性・課題についてヒアリング調査を実施した。

分類	ヒアリング対象者	実施日
A旅行会社	株式会社ミキ・ツーリスト 地域振興事業部	R7.2.4
Bユニークベニュー関連団体	公益財団法人東京観光財団 コンベンション事業部	R6.12.2
C近代化遺産の運営経験のある事業者	株式会社JTBコミュニケーションデザイン	R7.1.21
D酒造関係者	日本酒造組合中央会	R7.2.19
E北区の関連事業者	合同会社蔵の場	R7.1.13

※上記ヒアリング調査に加え、5社を集めた現地見学会(R7.4.9)を開催し視察の後に合同ヒアリングを行った。

<調査結果の分析>

◆旧醸造試験所第一工場の観光活用の可能性(アイディア)

→日本酒をテーマとした観光施設
(飲食・物販機能の導入／短時間で気軽にできる体験の提供／近代日本酒製造の工程・技術紹介など)
→展示会・見本市、ワークショップ・講座・体験会の会場
→酒造関係者・第一工場卒業生とのネットワーク活用(新酒発表会など)

◆旧醸造試験所第一工場の観光活用にあたっての課題

→継続的な利活用の実施 →情報発信 →周辺敷地の一体的活用 →建物の特性を考慮した活用
→インバウンド需要の取込み(情報発信／高価格プレミアムツアーの考案など) →周辺観光資源等との連携
→周辺住民との合意形成 →歴史的・文化的価値への十分な配慮 →駅からのアクセスの改善

◆北区近代化遺産全般の観光活用の可能性・課題

→複数施設の連携による観光活用の促進

事業成果

(1) 北区近代化遺産観光推進事業計画の策定

北区近代化遺産の観光活用事業の基本的方向性と事業フレームを以下のように設定し、事業計画を策定した。

<事業の基本的な方向性> 「日本酒の聖地」旧醸造試験所第一工場を中心とした北区近代化遺産の観光活用促進

中核事業

事業C：連携強化

- 事業 C-1 王子駅周辺の北区近代化遺産の相互連携
事業 C-2 全国の近代化遺産との連携
事業 C-3 区内近隣エリア(赤羽等)との連携
事業 C-4 日本酒業界との連携

事業A：情報発信・PR

- 事業 A-1 継続的なイベント開催による北区近代化遺産の周知
事業 A-2 対インバウンドを含めた情報発信

事業B：旧醸造試験所第一工場の発酵文化をテーマとした体験型観光施設化

- 事業 B-1 体験型観光施設化に向けた事業スキームの選択
事業 B-2 施設ターゲット層の設定
事業 B-3 魅力的な集客機能の導入
事業 B-4 施設内で日本酒を醸造するための設備の導入

事業D：合意形成

- 事業 D-1 地元地域(周辺住民・北区産業界)との合意形成
事業 D-2 日本醸造協会(管理団体)との協議・合意形成
事業 D-3 文化庁との協議・合意形成
事業 D-4 北区・東京都との協議・合意形成

事業E：環境・基盤の強化

- 事業 E-1 醸造試験所跡地公園との一体的活用
事業 E-2 交通事業者との連携強化(JR、メトロ、都電)
事業 E-3 交通アクセスの改善・魅力向上

中核事業の概要(上図の「事業A」及び「事業B」)

- 事業 A-1 継続的なイベント開催による北区近代化遺産の周知：近代化遺産を活用したイベントを開催し認知度向上を図る。
事業 A-2 対インバウンドを含めた情報発信：WEBサイト、SNSを活用して国内外に向けた情報発信を行う。また旧醸造試験所第一工場(赤煉瓦醸造工場)のビジュアルを活かしたPRを行う(ライトアップ、PR動画作成等)。
事業 B-1 体験型観光施設化に向けた事業スキームの選択：今後の関係者との協議や社会情勢等を踏まえ、「譲渡・売却方式」「コンセッション方式」「施設貸与方式」の中から適切な事業スキームを選択する。
事業 B-2 施設ターゲット層の設定：インバウンドも含めて幅広い年齢層をターゲットとし、老若男女が楽しめる施設づくりを行う。
事業 B-3 魅力的な集客機能の導入：飲食、物販、宿泊、展示、体験、セミナー、イベント等、多様な機能を導入する。
事業 B-4 施設内で日本酒を醸造するための設備の導入：敷地内に最新のマイクロブルワリーの設備を導入して日本酒を製造し、飲食・物販施設で提供、販売する。

(2) 北区近代化遺産観光に関する広報冊子の作成

広報冊子「東京北区王子・飛鳥山近代化遺産物語」を作成した(A4判横／フルカラー／20頁／210部)。内容は、東京北区近代化の歴史、飛鳥山周辺の近代化遺産群の特徴、北区近代化遺産の楽しみ方(モデルコース)、重要文化財・旧醸造試験所第一工場の特徴、北区近代化遺産リストとした。

今後の課題と展開

<今後の課題：事業推進体制の強化> 東京北区観光協会と東京商工会議所北支部及び、地元自治体である北区の関連部署(産業振興課・教育委員会)が中心となって、周辺住民や北区産業界の理解・協力を得ながら事業を推進する。また、旧醸造試験所第一工場の管理団体である日本醸造協会の意向を把握し、それを踏まえた内容とすることに留意するとともに、文化庁、東京都教育委員会とも協議・連携し、理解・協力を得ながら事業を推進する。

<今後の展開(事業の概略ロードマップ)>

事業	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度以降
事業A：情報発信・PR	準備	実施		
事業B：旧醸造試験所第一工場の発酵文化をテーマとした体験型観光施設化		実施		
事業C：連携強化	準備	実施		
事業D：合意形成		実施		
事業E：環境・基盤の強化		実施		